**認知症施策進捗管理表（R6－R8）**

| 項目 | 取組名 | 取組の目的 | リーダー | R6 | | R7 | | R8 | | 第3期計画指標 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 計画 | 実績 | 計画 | 実績 | 計画 | 実績 | |
| 普及啓発・本人発信支援 | 認知症ｻﾎﾟｰﾀｰ養成 | 認知症について正しい知識をもち、できる範囲で見守りや支援を行う人を養成する。 | 事務局 | 小学５年生　8校<br>中学　希望校<br>三好高<br>東海学園大学<br>市職員<br>職域　希望団体<br>地域　希望団体<br>　合計　1,500人程度<br>※小学校調整と市職員向けは市が調整、その他は事務局調整とする。 | 小学５年生　8校　578人<br>中学　希望校　72人<br>三好高校　279人<br>東海学園大学　368人<br>職域・地域一般<br>８か所　207人<br>　合計　1504人 | 小学５年生　8校<br>中学　希望校<br>三好高<br>東海学園大学<br>市職員<br>職域　希望団体<br>トヨタ自動車北員<br>地域　希望団体<br>　合計　1,500人程度<br>※小学校調整と市職員向けは市が調整、その他は事務局調整とする。 | 小学５年生　8校624人<br>中学　希望校116人<br>三好高校270人<br>東海学園大学0人<br>市職員37人<br>職域3団体243人<br>地域7団体126人<br>　合計　1,416人 | 小学５年生　8校<br>中学　希望校<br>三好高<br>東海学園大学<br>市職員<br>職域　希望団体<br>地域　希望団体<br>　合計　1,500人程度<br>※小学校調整と市職員向けは市が調整、その他は事務局調整とする。 | 小学５年生　8校●●人<br>中学　希望校●●人<br>三好高校●●人<br>東海学園大学●●人<br>市職員●●人<br>職域●団体●●人<br>地域●団体●●人<br>　合計　●●●人程度 | ●認知症初期集中支援チーム利用件数<br>⇒12件/年<br>●チームオレンジ設置数<br>⇒1チーム<br>●認知症サポーター養成講座受講者数<br>⇒1,500人/年<br>●一般高齢者における認知症の相談窓口を知っている人の割合<br>⇒40%<br>●本人ミーティング参加人数<br>⇒10人 |
| | 登録ｷｬﾗﾊﾞﾝ・ﾒｲﾄの活動支援 | ２人の医存活動者が小学校でひとりで講師として活動できるようになる。<br>また、新たにキャラバンメイトになった人が活動できる。 | 事務局 | ・医存２人が小学校で希望できるように日程調整する。<br>・県主催の講座を受講し、新たにキャラバンメイトになった人の意向を確認し、希望にあった活動を支援する。 | ・医存２人が小学校で活動できるように日程調整した。<br>・キャラバンメイト養成講座受講者に認知症サポーター養成講座を見学してもらい、来年度から活動できるように資料を配布した。 | ・新しい認知症観の普及に資する講座内容に改め、仮え方を含めて新しい認知症観を伝えられるように支援する。<br>・小学校版は、最初に市職員が担い、録画して動画資料とするとともに、毎回仮え返しを行う。 | ・新しい認知症観の普及に資する講座内容に、小学校版、大人版ともに新しい認知症観に基づく内容に変更したものを確実に行えるようにメイトを支援する。<br>・小学校版は、市職員が２校実施し、他６校を計５人のメイトで実施した。 | ・小学校版、中学校高校版、大人版ともに新しい認知症観に基づく内容に変更したものを確実に行えるようにメイトを支援する。 | | |
| | ﾌﾛｸﾗﾏｲﾄﾞ月間における普及啓発 | 認知症について幅広く知ってもらい、関心や正しい理解を持つことができる。当事者の声の発信の機会を創出できる。 | みなよし | ・9月のﾌﾛｸﾗﾏｲﾄﾞ月間にｷｬﾗﾊﾞｲﾌﾞ可能なﾌﾞｰｽを設置する。<br>・本の選定に当たっては、当事者発信を考慮する。<br>・可能であれば当事者家族経験者の協力を得る。 | ・9月のﾌﾛｸﾗﾏｲﾄﾞ月間にｷｬﾗﾊﾞｲﾌﾞ可能なﾌﾞｰｽ設置した。<br>・waraukadoの参加者に作品作成、代表に当日の設置に協力してもらった。 | ・9月のﾌﾛｸﾗﾏｲﾄﾞ月間に、ｷｬﾗﾊﾞｲﾌﾞでブースを設置する。<br>・本の選定は、当事者発信を考慮する。<br>・プロジェクト緑の事例を見える化し、ﾌﾞｰｽ内で掲示する。 | ・9月のﾌﾛｸﾗﾏｲﾄﾞ月間に、ｷｬﾗﾊﾞｲﾌﾞでブースを設置した。<br>・本の選定は、当事者帆筆を含めて選定した。<br>・プロジェクト緑の事例をポスターにして、ﾌﾞｰｽ内で掲示した。 | ・9月のﾌﾛｸﾗﾏｲﾄﾞ月間に、ｷｬﾗﾊﾞｲﾌﾞでブースを設置する。<br>・本の選定は、当事者発信を考慮する。<br>・プロジェクト緑の事例を見える化し、ﾌﾞｰｽ内で掲示する。 | | |
| | 認知症ｶﾌｪの内容充実 | 認知症の人やその家族の使い勝手を考慮した内容に改善し、認知症の人やその家族が望む情報を入手しやすくなる。 | みなよし | ・R７版の作成に当たっては、ページ構成の見直しを行わない軽微な変更を行う。<br>・デジタル化社会に対応したケアパスとするため、ホームページへの掲載による情報発信を行う。<br>・本人ミーティングの進捗をみながら、可能であればケアパスについて意見を収集する。 | ・デジタル化社会に対応した冊子とするため、ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを二次元ﾊﾞｰｺｰﾄﾞで掲載した。 | ・R８版は、軽微な変更とする。<br>・引き続きDX推進の観点からホームページに掲載する。<br>・内容の検討に当たっては、当事者に見てもらい、意見をもらって、校正に反映させる。 | ・R８版は、軽微な変更。<br>・引き続きDX推進の観点からホームページに掲載する。<br>・内容の検討に当たっては、みなよし地域の数人の当事者に見てもらった。また包括が普段関っている声を参考に、当事者が読んで不快に思う認知症の容態の説明文を削除した。 | ・新しい認知症観を踏まえて、掲載内容、文章等の表現の仕方を精査し、リニューアルする。 | | |
| | 本人発信支援 | 当事者の声を聴く習慣を作り、当事者の参加支援につなげたり、各種施策に活かすことができる。 | おかよし | ・デイサロンえんがわで行っている試行の本人ミーティングを継続し、当事者から話を引き出す手法を試行錯誤する。<br>・推進員が声をヒントに参加支援ができることは理想的ではあるが、デイサービスのスタッフが普段の活動により参加支援が行えるようにすることを目指す。 | ・R7年1月17日デイサロンえんがわで「みよし市における本人発信支援ー地域共生社会の実現に向けてー」というタイトルで設明会をスタッフに実施した。<br>・えんがわでモデル的に声の収集に取り組み始めた。 | ・えんがわでモデル事業として始めた取組の名称が「プロジェクト緑」と決まり、デイサービスえんがわの協力も得られることから、声を社会に実現につなげる事例を増やす。<br>・事例は、可能な限り動画や写真で記録に残し、発信できる準備をする。 | ・プロジェクト緑として、えんがわのみなるず、えんどう、笑み、まんまる、ファミリアが加わり、本人の活躍事例を積み上げた。<br>・写真や動画で記録を残し、写真を活用して講演会で発表した。 | ・プロジェクト緑の協力事業所を拡大する。<br>・本人発信によりできた事例を見える化する方法を検討する。 | | |
| 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援 | 認知症地域支援推進員の資質向上 | 認知症地域支援推進員が本市に必要な地域支援、個別支援について学べる機会を確保し、各種取組が認知症の当事者視点で推進できるようにする。 | 全推進員 | ・新たに推進員に配置された人は、必ず新任向けの東京センターが主催する推進員研修を受講する。<br>・経験を有する推進員は、現任向けの東京センターが主催する推進員研修を受講する。<br>・愛知県が国立長寿医療研究センターと協働で開催する研修に参加する。<br>・愛知県が提供する研修プラットフォームの必須講座を6月までに受講する。 | ・東京センター主催の推進員研修に２人受講した。<br>・愛知県と国立長寿医療研究ｾﾝﾀｰが行う研修に推進員が参加した。<br>・愛知県が提供する研修ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑの受講を行った。 | R6と同じ | ・東京センター主催の推進員研修に3人受講した。<br>・愛知県と国立長寿医療研究ｾﾝﾀｰが行う研修に推進員が参加した。<br>・愛知県が提供する研修ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑの受講を行った。 | R7と同じ | | |
| | 認知症初期集中支援チーム | 認知症初期集中支援チームの対象となる人が望む生活の継続を支援する。 | 医介連携担当者 | ・チームに支援を求めるケースの基準を選くとも8月までに決定する。<br>・チーム員の異動者が必ず受けることを前提に、伝達研修のあり方を6月までに決め、異動者に受講を促す。 | ・4月に認知症の相談でDASCが31点以上だったケースはチーム員会議の相談に挙げるという基準を設けた。相談実績15件<br>・伝達研修のあり方を4月に整備した。異動者2人へ受講斡旋し、6月までに受講してもらった。 | ・DASC31点以上の相談を継続し、その他困難ｹｰｽも相談ケースとしてチーム員会議に挙げる。<br>・ケアマネ向けに事例を紹介する等によりチーム活動の周知活動を行う。<br>・包括職員の異動が多いことから、チーム活動について理解を深める取組を行う。 | ・DASC31点以上の相談を継続し、その他困難ｹｰｽも相談ケースとしてチーム員会議に挙げる。<br>・国研修、伝達研修により資質向上を図る。<br>・ケアマネ向けに事例を紹介する等によりチーム活動の周知活動を行う。<br>・包括職員の異動が多いことから、チーム活動について理解を深める取組を行う。 | ・DASC31点以上の相談を継続し、その他困難ｹｰｽも相談ケースとしてチーム員会議に挙げる。<br>・国研修、伝達研修により資質向上を図る。<br>・ケアマネ向けに事例を紹介する等によりチーム活動の周知活動を行う。<br>・包括職員の異動が多いことから、チーム活動について理解を深める取組を行う。 | | |
| | 認知症疾患医療センターとの連携 | トヨタ記念病院が運営しているセンターとのつながりを通じて、個別支援、地域支援を展開できる。 | 全推進員 | ・認知症疾患医療センターが開催する研修に参加する。<br>・必要時、個別ケースで相談する。 | ・2月開催の認知症疾患医療ｾﾝﾀｰの研修に推進員が参加した。 | R6と同じ | ・2月開催の認知症疾患医療ｾﾝﾀｰの研修に推進員が参加した。 | R7と同じ | | |
| | | | 市 | ・認知症疾患医療連携協議会の構成員として、関係機関との連携体制構築を進めるため、会議に出席する。 | ・2月開催の認知症疾患医療連携協議会に出席した。 | R6と同じ | ・2月開催の認知症疾患医療連携協議会に出席した。 | R7と同じ | | |
| | 認知症カフェの普及 | 必要な人が認知症カフェを利用できるようにする。 | 市<br>なかよし | ・市広報誌の「認知症ｻﾎﾟｰﾀｰ」ｺｰﾅｰの掲載を継続する。<br>・9月の図書館ブースを活用してPRを継続する。 | 9月の図書館ブースにチラシを置き、各包括の運営する認知症カフェのPRを継続した。 | R6と同じ | ・市広報誌の「認知症ｻﾎﾟｰﾀｰ」ｺｰﾅｰの掲載を継続した。 | R7と同じ | | |
| | 認知症カフェの開設支援 | 市内に特色の異なる認知症ｶﾌｪが増えることで、市民の多様なﾆｰｽﾞに対応した認知症ｶﾌｪが提供できる。 | なかよし | ・喫茶を有する場所で新たな認知症カフェが開設できるように働きかける。<br>・認知症カフェ開設マニュアルを活用し、開設支援を行う。開設支援は、マニュアルの使い勝手の検証機会でもあることから必要時は随時改定を行う。 | 認知症の学びの場として最も身近で新たな認知症カフェが開設できるように働きかける。<br>開設時マニュアルを活用、使い勝手については開設後３カ月であるため検証中。 | ・新たに立ち上がったばかばか、ふくろうのカフェの支援を行う。<br>ばかばかは喫茶店閉店のため、利用者の継続先としてふくろうに合流できる流れを作る。<br>・にこにこ、オリーブは今後のあり方を検討する。<br>・みなよし地域にカフェがないことから、主催できる人又は団体を地道に探す。 | ・９月までばかばかを開催し、以後はふくろうを案内した。<br>・自走するカフェを目指して、当事者のニーズ把握のための調査を行った。<br>・安立荘と協働していた自閉法事業が終了するため、後継としてカフェ等の形式で継続できないか打診した。 | ・自走するカフェを目指して登録制について検討する。 | | |
| 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援 | チームみどりんオレンジ伴走支援 | チームみどりんオレンジが安定的に活動できるよう必要な支援を行い、三好丘緑地域がグランドゴルフがいつまでも続けられる地域にする。 | きたよし | ・活動状況の把握方法を考える。<br>・伴走支援用のスキップアップ講座を開催する。 | 市役所職員が日程調整中。<br>年度内にスキップアップ講座実施予定。 | R6と同じ | 活動把握と活動支援を目的にみどりん参加者向けの講座を計画し、みどりんの都合により年度明けに開催を計画した。 | R7と同じ | | |
| | チームオレンジ立ち上げ支援 | ひとによる早期からの継続支援が地域の中で行えることで、認知症の人やその家族が安心して生活を送ることができる。 | きたよし | ・チームが立ち上がるときのスキップアップ講座の標準的な内容を８月までに決める。<br>・希望がある地域に対して標準的な内容を参考に、受講者の意向も踏まえて内容を変更し、講座を開催する。 | 今年度末までにチームオレンジ立ち上げマニュアル作成した。 | ・希望がある地域に対して標準的な内容を参考に、受講者の意向も踏まえて内容を変更し、講座を開催する。 | 希望する団体はなかった。 | ・希望がある地域に対して標準的な内容を参考に、受講者の意向も踏まえて内容を変更し、講座を開催する。 | | |
| | 市域を超えた見守り体制の維持 | 行方不明等の対応において広域的連携を維持し、安心して外出できる地域を目指す。 | 市 | ・行方不明発生時においてオレンジネットワークを活用する。<br>・あいちオレンジネットワーク会議に出席し、ネットワークの安定稼働を協議する。 | ・あいちオレンジネットワーク活用数　2件<br>・あいちオレンジネットワーク会議R6.12.26出席 | R6と同じ | ・あいちオレンジネットワーク活用数　2件<br>・あいちオレンジネットワーク会議R8.1.30出席 | R7と同じ | | |
| | 見守り支援の充実 | みよしささえ愛会議を活用して、本人の意向に踏まえた見守りにより安心して外出できる地域を目指す。 | 全推進員 | ・行方不明経験者や警察から情報提供があるケースは、原則全件みよしささえ愛会議により見守り体制を検討する。 | 行方不明の見守りに係るみよしささえ愛会議開催数2回 | R6と同じ | 行方不明の見守りに係るみよしささえ愛会議開催数3回 | R7と同じ | | |
| | | 地域の見守り体制を強化するため、日常生活圏域ごとに行政区、コミュニティ等の単位で訓練を実施する。 | 全推進員 | ・日常生活圏域ごとに行政区、コミュニティ等の単位で訓練を実施する。 | 三好丘旭行政区20人参加<br>あみだ堂行政区　15人参加<br>三好上行政区　17人参加<br>東山行政区　20人参加 | R6と同じ | あおば行政区20人参加<br>ひばり・桜行政区　17人参加<br>福田行政区　17人参加<br>明知下行政区　39人参加 | 本人の声により声かけ訓練は逆効果であることがわかったため、模擬訓練は開催しない。<br>代替の普及啓発について検討する。 | | |
| | 成年後見制度等の利用促進 | 認知機能が低下しても安心して生活する上で必要不可欠な金銭管理や身上監護が適切に受けられる。 | 全推進員 | ・日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用が望ましい個別ケースに対応する際に、本人の意向を尊重するため、可能な限りみよしささえ愛会議を開催し、後見センター職員等との十分な意見交換により適切な支援を行う。 | 権利擁護を目的とするみよしささえ愛会議開催回数3回 | R6と同じ | 権利擁護を目的とするみよしささえ愛会議開催回数8回 | R7と同じ | | |
| | 消費者安全の推進 | 消費者トラブルに遭遇しやすい高齢者が適切な情報提供を受け、トラブルの未然防止、早期解決を行えるようにする。 | 市<br>全推進員 | ・地域包括ケア推進会議に内包している消費者安全確保地域協議会により市から情報提供、注意喚起を行う際に、広く推進員は周知に協力する。<br>・消費者トラブルの際は、消費者相談センター等適切な機関に相談する。 | ・第3回地域包括ケア推進会議で消費者安全確保地域協議会に内容として市からの情報提供等を行った。 | R6と同じ | ・第3回地域包括ケア推進会議で消費者安全確保地域協議会に内容として市からの情報提供等を行った。 | R7と同じ | | |